

# 事業計画書

第V期 (令和2年8月1日～令和3年7月31日)

一般社団法人ハビリスジャパン

## I 活動方針

1. 手や足に障がいのある子どもたちの成長と活動に“適した“環境を整えることで一人ひとりの可能性を広げ、成長を支え、未来を育む支援を行う。
2. 障がいがある子どもたちが、義手や義足を使うことにより、子どもたちの社会参加に向けた総合的な支援体制を築く。
3. 情報発信を行い、家族だけでなく、医療・教育機関等の関係諸団体と連携をとりながら事業を実施する。
4. コロナ禍のイベント開催の判断を慎重に行うとともに開催する時は、参加者及びスタッフの安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で実施する。
5. インターネットを活用した各種イベントの開催方法等の検討を含め、安心して子どもたちが生活し、運動に取り組めることができるための情報提供と情報交換の場をつくる支援を実施していく。

## II 今年度の主な事業

### 1. 障がいのある子どもたちの社会参加の支援事業

障がいのある子どもたちが、より良い社会生活を送るための機会創出を目的とするイベントを開催する。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来のような子どもたちが会場に集う形でのイベントの開催は難しいものと考えられる。このため、下記①のようなオンライン会議システムを利用する形式を中心に新しいイベント実施を検討する。

- ① オンライン双方向通信を用いた家族会 8月
- ② PAFF 運動教室 (大泉スワロー体育クラブ・大阪 PAFF) 未定
- ③ 各種団体共催の運動イベント 未定
- ④ キッズスポーツスクール 未定
- ⑤ 料理教室 未定

### 2. リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓蒙事業

教育・啓蒙活動のための情報発信をインターネット、マスメディアを中心に行う。

#### (1) 教育セミナー開催

教育・情報交換会セミナーを実施し、研究者・教育者・保護者の関係者知識を高めるとともに、社員教育研修等の教育プログラムも実施する。オンラインでの開催も検討していく

・IVI (アイビー) セミナー 年1回

#### (2) 専用サイトの充実

イベントで得られた知見や専門部会委員が研究した成果などを、専用サイトを通じて広く発信することにより、教育・啓蒙活動を行う。また今年度は、ビジョンや団体設立経緯、詳細な団体概要(事業概要・過去実績・受賞歴など)などの情報を掲載しサイトの内容を充実させる。

専用サイトアドレス ( <https://habilisjapan.com/habilisjapan> )

(3) ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の専用アカウントによる情報発信

Twitter、Facebook ならびに YouTube の専用アカウントからの情報発信を積極的に行う。イベントで得られた情報をタイムリーに発信することにより、専用サイトへ誘引し啓蒙活動を促進するとともに、会員増加（新規会員獲得および現会員の継続率増加）を目指す。

(4) マスメディアを通じた情報発信

イベント実施時などにマスメディアに対してニュースリリースを行い、取材対応をすることによって、本法人の目的を広く情報発信する。

3. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

(運動用義肢については昨年度に引き続き三菱助成事業の対象として継続)

日本製の小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発を行うための基礎的調査として昨年度実施した上肢欠損児の運動用義手に対するニーズ調査に関して評価手段の検討と質問紙調査の結果をまとめる。また、専門部会を開催し、専門家の意見を集約し、結果を報告する。

各運動イベントにおいては、体力測定を実施し、四肢形成不全児の身体運動能力のデータ収集を継続して実施する。

(今後のハビリスジャパンの事業戦略立案に必要な調査)

今年度は当団体設立5年目に入り、今後の活動方針や事業方向性を抜本的に見直す時期にきている。したがって当団体ビジョンに則り、新たに達成すべき目標を掲げた中期事業計画を策定するために、当団体の現状を把握する必要がある。具体的には、当団体の外部環境の調査および、組織の内部環境を見直した上で、マーケティングのための市場調査を実施する。

4. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

障がいのある子どもたちを対象とした様々なスポーツ活動、具体的には跳び箱、マット、鉄棒等の運動を行うに当たり必要な義肢用部品及び運動用具の整備を行う。あわせてアタッチメント部品の製作を行い、これらをイベント時に貸与する。今年度も Shroom Tumbler、TamTam、Hamo のマット運動用および鉄棒運動用手先具の貸与を継続する。また新たに、筋電義手も貸与対象とした事業計画の設計を目指す。

5. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 会員、寄付者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知してもらうため、個人会員、賛助会員、寄付者、サポーターの募集を行うと共に現会員の維持に努め、本法人の長期的な運営資金を確保する。

また、今年度は賛助会員の拡大を目指し、当法人の広報資料作成を行い、あわせて会員の更新率を高めるため活動報告書の作成など工夫を行う。

個人会員と賛助会員、寄付額合計を運営費 300 万円/年を目指す。

(2) 各法人・団体・個人との連携・協力体制の構築と継続的な情報交換

全国の医療機関、義肢装具製作会社、義肢部品製造・販売会社、自治体、マスメディアならびに障害者スポーツ協会などの各種団体との連携を行う。

(3) 「NPO 法人 2 枚目の名刺」主催のサポートプロジェクトとの連携

様々なバックグラウンドをもつ社会人と非営利団体が一つのチームとなって課題解決に取り組む有期サポートプロジェクトに参画する。子どもたちの未来を支える事業をより発展させていくため、現在ハビリスジャパンが抱える課題を共有し、課題解決に向けて一緒に取り組む。11月に成果をまとめ報告する。

(4) 三菱財団助成金の活用（平成 30 年 4 月～令和 2 年 9 月）

平成 30 年 4 月～令和 2 年 3 月までの期間を対象に三菱財団助成金の実施する平成 29 年度社会福祉事業・研究助成金から 530 万円の交付を得ていたが、新型コロナウイルス感染予防のためイベントを中止したことにより令和 2 年 9 月まで延期の承認を受けた。9 月までイベント開催の目処が立たないため計画を変更し、総合的な普及支援事業として使途を変更した。9 月までに普及支援事業としてブックレットを作製する。研究対象事業以外については、法人本体資金で実施する。

社会福祉-30：

上肢欠損小児の運動用義手のニーズと有効性に関する研究

および総合的な普及支援事業

概要：積極的な運動参加による発達支援を可能にする義肢（以下運動用義肢）が本邦では普及していない現状から、当法人は義肢を使用する子どもたちが運動用義肢を活用できる環境を整え「総合的な支援」の実現を目指す。

そして運動用義手を紹介し、体験できる場の提供、その使用方法、製作方法、さらには指導方法の開発と情報共有を関係職種（医療職・教育関係・スポーツ指導・企業・官庁）に対して行いつつ、義肢を使用する子どもたちにとっての運動用義肢の意義と有効性について実証する。これにより義肢を使用する子どもたちの運動を通じた社会参加の実現に貢献することを目標とする。

(5) FIT チャリティーラン寄附金の活用

昨年度、FIT チャリティーラン寄附金 639 万円を受けた。多くの子どもと家族が義肢を含め適切な身体の使い方を学ぶ機会を提供していく。使途は、アクティビティ用義肢部品購入、義肢製作費、イベント運営費、セミナー講習会費、子ども達、ならびに小児用義肢部品に関わる人達向け広報資料作成である。

- 1) 医療関係者・他の専門職と連携し、運動用義肢の処方から訓練、製作の経験を増やす
- 2) 子どもたちのニーズにより合致した運動義肢部品の新規開発・改良につなげる
- 3) 教育関係者を対象に学校などで義肢を安心して使用できる総合的な支援体制構築を目指す。